

# 相手の目標や段階に 合った教育を



大樹寺貫主  
中村 康雅 氏

私の父は幼い頃、学友から寺で生まれることを擲<sup>や</sup>擲<sup>ゆ</sup>され、教育の道に勤めをしました。ところが、寺を任せる予定であった弟たちが次々に戦火で命を落としたため、二足のわらじを履いた生涯を送ることになりました。寺を護ることで精一杯な私には、到底真似<sup>まね</sup>出来ない生き方でした。そんな私が大樹寺に入山し、教育随想という原稿依頼を受けたことは、亡き師父からの宿題のように思われます。

さて、教育について調べると、広辞苑等には「教えること」とあり、教育を意味するラテン語には「外へ導く」という意味があるとされます。国際化する現代社会の教育においても、教えて育てることであり、外へ導くことだと言えます。



仏教を開かれたお釈迦様は、弟子を教育するために、対機（相手に合った教育）や次第（相手の段階に応じた教育）と呼ばれる説法をされました。その様子は、卵の中から生まれるたいと殻を突く雛を外から誘導する親鶏のようだと言われ、相手の求めを汲み取り、相手に合わせて導く教育でした。

（なかむら こうが）

## 教育随想



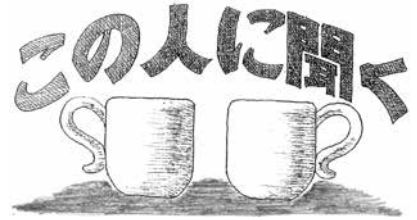
平成 30 年 7 月 1 日

# 7 月号

発行・編集  
岡崎市教育委員会

### 今月の紙面

- 教育随想…………… 1  
大樹寺貫主 中村 康雅 氏
- この人に聞く…………… 2  
醸造会社代表取締役 深田 英揮 氏
- 羅 針 盤 …………… 2  
保健指導員 畠中 恵実
- ふれあい…………… 3  
矢作北中学校 橋本晋一郎
- 特 集…………… 4  
特別インタビュー  
安藤直哉 教育長に聞く
- お知らせ…………… 6
- フォト・ヒストリー… 8  
「恵田っ子ども園」で初収穫  
(昭和 61 年)
- この本を…………… 8



### 個性ある日本酒造りに挑む

醸造会社代表取締役

深田 英揮 氏

おしゃやかなスーツ姿に蝶ネクタイ。酒蔵から颯爽と、深田氏は現れた。「なんでそんな奇抜な身なりをするのかと、よく聞かれます。僕は、日本酒の古くさいイメージを変えたいのです。日本酒はおしゃれでかっこいい、と言われたいのです。」と夢を語る目が輝く。

そんな深田氏だが、昔はさほど酒が好きではなく、醸造の仕事に就いたのも家業を継ぐためだったと言う。「この仕事を始めた十二年前は、日本酒人気が底の時代。当時うちの酒の売り上げの八割は三河地域。しかもそれは祝祭用で、酒屋にうちの酒は置いてありませんでした。これじゃだめ。自分がやるからには、何かを残したいと思いました。」  
当時、酒屋をいくら回っても、酒

を置いてくれる店はほとんどなかったと言う。深田氏は、酒屋や飲食店に頭を下げ、どんな酒なら置いてくれるか聞いて回ったそう。そして、みんなが「おいしい」と言ってくれる、個性ある酒造りを目指したと言う。「酒は基本、水と米。千五百の全国の酒蔵が、同じ工程で造ります。その中で、うちはどう個性を出すか。三百年以上この地で造ってきた甘みのある酒に、酸味と後味のよさが加わるよう、うちでしか造れない日本酒にしたいと考えました。それで米は八種類、酵母も五種類と、様々な材料を試し、作り方も変えるなど、試行錯誤しました。」

杜氏たちと、積極的に他の酒を飲み比べ、味を分析し、勉強したそう。「社員みんなで話し合ったり、これまでと違う技を取り入れたりして新しい酒造りをするのは大変ですが、楽しかったです。」

時代が求める新しい味を追究する深田氏や杜氏たちの努力が実り、平成二十六、二十七年には、清酒きき酒研究会審査で、県知事賞を受賞した。今では、売り上げの五割が県外へと広がり、海外でも飲まれているという。

「海外や東京のおしゃれな店でも、うちの酒をおいしいと飲んでもらえることがうれしいのです」と微笑む。深田氏が求めてきた個性ある日本酒が、多くの人に認められた。

酒造りに携わる喜びを語る深田氏は、地元岡崎にも思いをはせる。「最近市外の人からも注目しても



らっていますが、やはり、一番は岡崎の人にうちの酒に親んでもらいたいのです。岡崎にも、酒の文化を根付かせたいのです。」

今では年に数回イベントを開き、地元の酒を市民に楽しんでもらっている。また、昨年度は六ツ美の悠紀齊田で作られた「萬歳米」を使った純米大吟醸酒も造った。

「岡崎の米で造った、おいしい酒をぜひ地元のの人に飲んでもらいたい。」と語る顔に、笑みがこぼれる。

「酒は嗜好品。生きるために絶対に必要なものじゃない。でも、人生のひとつときを楽しむスパイスとして、うちの酒を手にとってもらえることに、感謝と誇りをもっています。三百年、ここでずっと酒を造ってきましたが、これからも努力を続け、人生を潤す最高の酒を造っていきます。」

多くの人に楽しんでもらえる酒を造ることが、氏の生きがいとなる。これからも個性ある最高の酒を求め、岡崎の地で酒造りに挑み続ける。

氏 名 ふかだ ひでき  
生年月日 昭和四十九年二月十五日  
住 所 岡崎市両町



### 生活に生きる知識と技能

保健指導員

畠中 恵実

新学習指導要領では、ストレス対処や応急手当が「技能」として新たに明示された。しかし、子供たちがただ技能を習得するだけでは、どのような状況にも対応できる「生きて働く力」とは成りえない。知識や技能の習得だけでなく、実生活の中で活用できる力をつけることが求められる。そのためには体験を通して、現実在即した課題を見つけ、解決しようとする姿勢が大切である。

A 中学校では「災害時の応急手当」に関する授業が行われた。授業者は「意識不明」「骨折」などを想定したミッションカードを用意し、子供が既習事項を基に、自分たちで判断し、応急手当を行う授業に取り組んだ。一回目の実習が始まった。ミッ



## 自分でやり切る充実感

矢作北中  
橋本晋一郎

二年生の跳び箱の授業初日、小学校の復習である開脚跳びの六段を跳んだ。跳ぶことができない生徒が三名。A男もそのうちの一人だった。A男は、運動能力はそれほど高い方ではないが、運動することは好きで、授業にも前向きに取り組む。しかし、跳び箱については、小学校から苦手だったせいか、この日もどこか表情が硬い。

「どうすれば跳べるのかな。」  
そう友達に聞きながら、自信なきそうに練習をするA男の姿があった。この跳び箱の授業で、なんとか自分で跳べるようになる喜びを味わいたい。そのために技能の習得はもちろん、なにより自分で考えて練習を行い、苦手なことを乗り越えられるようになってほしいと願った。まず技のポイントや練習方法を載

せた資料を用意した。早速、A男は自分でその資料を手に取り、練習を考え始めた。試行錯誤しながら、自分で跳び箱の技能を習得していった。そして、開脚跳びも抱え込み跳びもクリアした。跳び箱の学習を始め

て五時間目、  
「頭はね跳びができるようにしよう」という課題の授業を行った。クラスの八割ができないと言った難しい技である。それでもA男は、早速、資料を見ながら練習に取り組む。しかし、何度やっても頭をついたただの前転のようになってしまう。怖くて跳ねることができないのだ。A男は座り込んでしまった。  
「まだ少し怖くて。」

A男の恐怖心を少しでも取り除いてやりたい。でも、自分の力で乗り越えてほしい。これまでの課題は自分でやり方を調べ、挑戦し、クリアしてきた。手を貸すことは簡単だが、それでは自分で乗り越えたことにならない。A男ならきつとできる。そう信じて、あえて「どうすればできる」と問い掛けることにした。

「前の技は、怖いと思ったときに、どうしたか、思い出してごらん。」  
A男の目に再びやる気の灯がともった。A男は、跳び箱の段数を減らして練習を始めた。徐々に跳ぶ回数が増える。さらに隣で跳んでいる友達を観察し、資料と見比べる。恐怖心に打ち勝ち、技能を向上させたいと

いう思いが、顔や動きにも見られるようになってきた。

「友達とは何が違うのかな」と問う。  
「きつと背中の反り具合かな。」  
そう答えるA男に、再び聞き返す。  
「どうすればいいかな。」

友達を観察しながらじつと考える。  
「腰を跳び箱の上で伸ばすんだ。」  
「そのときのポイントは何かかな。」  
「タイミングだ。お尻が頭を通り過ぎたところで伸ばしてみよう。」

A男は試す。でも、できない。しかし、やり切りたいという思いがA男を突き進める。  
「さっき言っていたことはできたね。次はどうすればいいのかな。」

A男は手の突き放しを意識し、何度か何度も試す。自分で考えて、徐々にこつをつかんでいく。  
その日の練習終了間際、A男が駆け寄ってきた。

「先生できたので見てください。」  
A男の体が跳ねた。そして渾身のハイタッチを交わした。自分でやり切った充実感いっぱいの笑顔だった。



シヨンカードを見て戸惑う子供たち。骨折部位の固定では、三角巾をうまく使えず「どうしよう」と焦りだけが広がる。意識不明者に対しては、周りの安全確認をせずに駆け寄り、不安げに心肺蘇生法を開始する。

あつという間に制限時間となり、班での振り返りを行った。チェックカードを基に、子供は自分たちで行った手当てについて考える。「三角巾は、後でほどこやすいように結ぼう」「手当てをする人の安全確認が必要だった」「協力者をたくさん呼ぼう」など、実習を経て、目の前の現実在即した意見の交流がなされていく。

実習・振り返りを繰り返す中で、授業者は「骨折しているから、かなり痛いだろうね」など、状況を想起しやすい声を掛けて回った。また、適切な手当てをしている班を称賛し、全体の場で紹介した。その度に「なるほど」と大きくうなづく子供たち。次第に、傷病者に適切に声を掛け、患部を固定する班、安全確認・協力者要請・AED持参など、分担して手当てができる班が多くなっていった。子供の真剣な表情からは「実際に災害が起きたとき、自分も役に立ちたい」という強い思いが伝わってきた。これこそが生活に生きる知識と技能である。

## 特別インタビュー 安藤直哉教育長に聞く

一人一人の心を大切にし、  
全ての子供に光を当てる教育の実現を

今年四月より新しく教育長に就任された安藤直哉教育長を訪ね、お話を伺いました。



安藤先生「ご自身が、教員生活を通して大切だと思われることは何ですか。」

私が教師として最も大切にしてきた考え方は「全ての子供に光を当てること」です。

青山学院大学駅伝部の原監督は、箱根駅伝に出場できなかった世代の部員も、優勝した世代と同じように大切にしているそうです。その姿勢に同じ子供を育てる指導者として感銘を受けます。彼は、陸上を通して一人前の社会人を育てています。表舞台で活躍する選手だけでなく、部員全員に自分をマネジメントする力を育て、誇りをもたせていることが素晴らしいと思います。私も部活動では「勝つことを目標に掲げてよいが、目的は心と体を鍛え、技量を上げることだ」と考えています。学校の部活動は、教育活動です。選手として活躍する子供も、そうでない子供も、それぞれの目的に向かって努力できることが大切なのです。

授業でも全員が参加することが大切です。

全ての子供が、「こんなことがわかった」「これができるようになった」と、授業を終えたときに学びを自覚できなければなりません。そのために授業は、「活動的であり、協働的であり、反省的」であるべきです。体育でも理科の実験でも活動することは、それ自体が楽しいことです。また、協働的に解決する場面を設定することで、仲間自分の考えを伝える技術を磨くとともに、意見を交わし合う楽しさを味わうでしょう。さらに大切なのは、授業の終末に反省的な場面を設けることです。授業を振り返ることで学びを自覚できます。授業の楽しさを味わわせるとともに、活躍する場をもたせ、仲間と磨き合う中で「全ての子供に光を当てること」ができると思うのです。そのとき、子供は自信をもち、自己肯定感を培っていくのです。

最近、教師の言葉がとても気になります。「できた人」「わかった人」という言葉を教師はよく口にしますが、「できていない人」「わからずに困っている人」を置き去りにしていませんか。活躍している子供や目立つ子供ばかり

りに目がいついていないでしょうか。毛涯章平氏は「近くに来て、自分を取り巻く子たちの、その輪の外にいる子に目を向けてやれ」との言葉を遺しています。全ての子供を大切にする感性を磨いてほしいと思います。

### 岡崎の教育のよさと「働き方改革」についてお考えをお聞かせください。

新学制三十周年を記念して発行された「岡崎の教育」に「教育は夢見るものであり、希望に満ちたものであり、明日に期待するものである」と記されています。過去の先生たちも、そう願ひ、大変な時代を切り抜けてきました。そうした熱意や伝統に支えられ、質の高い岡崎の教育が保たれてきたと言えるでしょう。

今、「働き方改革」が叫ばれていますが、これは**教職員の文化を変える大革命**です。教職員の文化を変えることは、教職員のライフスタイルを変え、教職員の生き方を変えることになります。これまで、子供のためにと、限りなく時間を使ってきた「量」の教育から、限られた時間で勝負をする「質」の教育への意識の変革が求められています。また、文化を変えるにはトップダウンではできません。当事者である教職員それぞれが、生活を変えていこうという気持ちをもたなければ改革は進んでいきません。

改革を進める上で大切なのは、**本質を見極める**ことです。時間を短くしながらも、今までの教育の「質」を維持するためには、何が本質かを見

極める必要があります。やみくもに行事を減らしたり、これまで行ってきた様々な教育活動を減らしたりすることで岡崎の教育の質を落とすことがあってはなりません。

この十年間、教員の労働時間は増加しています。こうした勤務の実態では、教員の健康リスクの増加が危惧されます。子供が心身ともに健康的な成長を果たすには、そこに関わる教師が健康でなければなりません。子供が様々な課題を乗り越え、豊かな人格を形成していくためには、教師自身が人間性や専門性、指導力を高めていくことが必要です。効率よく仕事を終え、自分の時間を確保することも必要です。

この難題を岡崎の教師ならば、知恵を出し、協力して必ず乗り越えられると信じています。

### 岡崎の教育の担い手である全教職員に向けて、メッセージをお願いします。

現代は「超スマート社会」と呼ばれるそうです。AIやICTの発達で、教育が知識の習得を目指すなら、もはや人間がしなくてもよい仕事であるという声もあります。しかし、教育の目的は「人格の形成」であり、人を育てる教育は、人間教師にしかできないと確信しています。

教育の大切さ、教育の本当の力を、教師が自覚しなければなりません。未来を創る子供の教育をロボットに委ねるわけにはいかないのです。今は正に教育の正念場です。

こうしたICTが進む時代だからこそ、人間

教師にしかできない、実体験や、生きて働く知識、物事の捉え方や心、考え方を、教育の中に組み込み、人との関わりの中で鍛えていかなければなりません。

教育の担い手である私たちが子供たちを導き、支えるための唯一で最大のものは「言葉と背中」です。「言葉と背中」で生き方を示しているか、今一度、見直さなければなりません。

どんな言葉を言うと子供は安心するのか、教師の言葉で子供を傷つけていないか、板書ではきれいな字を見せているだろうか、教師が話しながら子供の活動を奪っていないか……。そうした「言葉の力」、「教師の背中」を、私たちは鍛えていかなければならないのです。

国語教育の大先輩である後藤金好先生は、その著書『読書指導の系譜』の中で、次のように言っています。「もとより、道はあまりに遠く、己はあまりに小さい。さればこそ行いは、日々新たなりうることを信じて精進を期するものである。」

足下にも及ばないが、そうありたいと思います。

※「超スマート社会」：産業革命による工業社会、インターネット等の発展による情報社会に続く、新しい社会のこと。



安藤教育長の教育に対する情熱、教師としての誇りをもって話されるお姿に触れ、今後の岡崎の教育を創っていく決意を新たにしました。



### ● 教育図書室

教育研究所内にある教育図書室は、毎年新刊の教育図書を購入し、蔵書数は、約六千四百冊である。学習指導案、学芸会脚本、運動会DVDも、新しいものが追加されている。積極的に活用し、日々の教育活動に生かしてほしい。

○所在地

総合学習センター（三階）

○電話 八三―七七七〇

○休館日

日曜日・月曜日・祝日

（月曜日が休日の場合は、

火曜日も休館日）

○開館時間

午前九時～午後七時

（土曜日は午後五時まで）

◆ 図書の貸出方法

- ① 受付で「利用者届出書」を記入し、個人登録する。（初回のみ）
- ② 図書を選ぶ。（五冊まで）
- ③ 二週間以内に返却する。

◆ 学習指導案・学芸会脚本・蔵書の検索方法

【職員室のパソコンから】  
「OKリンク」↓「先生のページ」



【教育図書室で検索・印刷】

- ① 教育図書室にあるパソコンで検索し、閲覧する。
- ② 希望する資料の「分類番号」を受付に伝え、印刷してもらう。

※紙文書の状態で収蔵されている学習指導案は、複写することができない。

### ● 少年自然の家

積極的な活用を

六月に入り、いよいよ市内小学校を中心にした本格的な活動が始まった。「少年自然の家」は、親元を離れて、友達と集団活動をしなが、宿泊の経験をする貴重な場である。ここでの活動では、学校で見ることのできない子供の活躍の場面を目にすることができ

る。そういう意味でも教育活動の中で、重要な位置づけにあると考えている。そのため、子供たちが意欲的に活動し、安全で気持ちよく使ってもらえるように、オフシーズンとなる十二月から施設や環境の整備に努めてきた。各学校から「奉仕活動」の協力を得ているのも、施設の維持・管理上

大きな力となっている。

本所は、指導員や、職員が少ない。しかし、先人から受け継いできたノウハウを武器に、他の施設に負けないよう、職員が誠意をもって工夫しながら運営している。

先日、県内に五か所ある「少年自然の家」の職員が集まって連絡協議会が開催された。そこで明らかにしたのは、岡崎市以外は法人が運営しているということである。そのため、他所は利用料が高い。一方、岡崎少年自然の家では、利用料が抑えられ、金銭的な負担が少ない。こうした利用のしやすさも、当施設の魅力の一つと考えている。



今後は、「ネイチャークラブ」や「ホタルの会」「星を見る会」など独自の企画を、教員OBの協力を得ながら行っていく予定である。多くの方とともに活動できるように楽しみにしている。

### ● 表彰

◆ 第48回親善少年相撲金沢大会

○三・四年生の部 男子

三位 常磐南小 鈴木 龍

◆ 第36回愛知県小・中学生女子個人選手権大会（剣道）

○小学六年の部

優勝 福岡小 畔柳知花

◆ 第35回愛知県少年剣道選手権大会

○小学四年男子の部

三位 福岡小 畔柳 薫

三位 福岡小 畔柳 薫



● 第六十二回岡崎市中学校  
総合体育大会の記録

● 種目別競技

種目	性	優勝	2位	3位
陸上競技	男	六ツ美北	六ツ美	矢作
	女	矢作	六ツ美北	竜海
バスケットボール	男	葵	矢作北	美川 竜海
	女	葵	岩津	甲山 六ツ美北
バレーボール	男	矢作北	矢作	北 竜南
	女	矢作北	翔南	六ツ美 東海
ソフトテニス	男	城北	常磐	美川 東海
	女	矢作	六ツ美北	矢作北 城北
卓球	男	矢作	城北	常磐 竜海
	女	新香山	北	南 常磐
新(オープン競技)体操	女	碧南市立南	碧南市立新	東海A
剣道	男	福岡	矢作	甲山 葵
	女	矢作	六ツ美北	葵 矢作北
ハンドボール(女子のみオープン競技)	男	竜南	美川	六ツ美
	女	美川	高浜市立高浜	
軟式野球	男	翔南	葵	甲山 城北
ソフトボール	女	甲山	矢作	北 城北
柔道	男	矢作	甲山	矢作北
	女	城北	甲山	矢作
サッカー	男(女)	矢作北	竜海	翔南 甲山
弓(オープン競技)	男	幸田北A	幸田南A	幸田A
	女	幸田B	額田B	幸田A
水泳	男	甲山	矢作	葵
	女	矢作	甲山	東海

● 陸上競技(個人成績・1位のみ)

性	種目	氏名	校名	記録	
男	100m	藤澤 登生	六ツ美北	11"85	
	200m	田原 慧人	六ツ美	23"41	
	400m	玉木 裕真	六ツ美北	新 52"63	
	800m	太田 悠斗	南	2'02"88	
	2年1500m	竹田 大輔	矢作	新 4'25"37	
	3年1500m	稲吉 廉太	葵	4'21"67	
	3000m	正重 天	六ツ美北	9'25"38	
	110mH	佐川 博也	六ツ美北	新 15"37	
	子	400mR	山崎③ 田原③ 犬塚③ 鈴木③	六ツ美	新 44"39
		走り幅跳び	曾我 亮太	六ツ美北	新 6m23
女	走り高跳び	田中 鉄馬	城北	新 1m85	
	砲丸投げ	犬塚 丈瑠	六ツ美	9m88	
	棒高跳び	吉村 亮祐	六ツ美北	2m90	
	100m	土居 心愛	竜海	12"64	
	200m	土居 幸愛	竜海	新 26"23	
	800m	小山 愛結	六ツ美北	2'20"25	
	1500m	磯部 早良	矢作	新 4'54"66	
	3000m	杉浦 花音	矢作	新 10'28"48	
	100mH	齋藤 未来	矢作	新 15"28	
	400mR	高倉③ 土居心③ 手島③ 土居幸②	竜海	新 49"00	
子	走り幅跳び	荻野 由菜	竜南	4m87	
	走り高跳び	鈴木 菜美	六ツ美北	1m55	
	砲丸投げ	杉浦 遥	六ツ美	10m18	

新...大会新記録

※昨年度から全天候型陸上競技場に会場が変更されているため、新記録がたくさん出ている。

● 水泳競技(個人成績・1位のみ)

性	種目	氏名	校名	記録
男	50m自由形	石川 蒼士	矢作	26"99
	100m自由形	戸村 圭佑	城北	59"03
	200m自由形	小林 夢翔	竜南	2'11"25
	50m背泳ぎ	山本 壮駿	北	31"28
	100m背泳ぎ	朝倉 悠斗	甲山	1'07"76
	50m平泳ぎ	杉浦 凜汰郎	竜南	新 31"53
	100m平泳ぎ	成瀬 叶来	新香山	新 1'08"16
	50mバタフライ	加藤 遼馬	甲山	28"53
	100mバタフライ	鈴木 逸心	東海	1'04"18
	200m個人メドレー	谷 一輝	矢作北	2'23"06
子	50m自由形	築山・脇田・太田・石川	矢作	4'25"42
	100m自由形	大河原・加藤・朝倉・加藤	甲山	4'03"52
	50m自由形	鈴木 沖日	北	29"63
	100m自由形	稲吉 爽	葵	1'05"14
	200m自由形	片山 琴葉	甲山	2'18"42
	50m背泳ぎ	竹田 実紗	矢作	32"87
	100m背泳ぎ	西村 優奈	福岡	1'12"09
	50m平泳ぎ	秋村 実和	新香山	38"05
	100m平泳ぎ	内山 遥陽	六ツ美北	1'21"56
	50mバタフライ	石田 優依	矢作北	31"92
子	100mバタフライ	漆山 桃子	竜海	1'15"31
	200m個人メドレー	宮島 颯希	矢作	2'43"44
	4x100mメドレーリレー	竹田・宮島・山下・蛭海	矢作	5'13"59
	4x100mリレー	水越・宮島・竹田・山下	矢作	4'27"57

● 柔道競技(個人成績・1位のみ)

種目	性	階級・部門	氏名	校名
柔道	男子	軽量級	神谷 至恩	東海
		軽中量級	太田 隆介	六ツ美北
		中量級	岩尾 直輝	矢作
	女子	重量級	山本 悠人	愛産大三河
		軽量級	黒木 悠里	矢作
		軽中量級	野村 莉音	城北
		中量級	川崎 想	城北



・カ  
ツ  
ト  
北  
中  
長坂有里乃

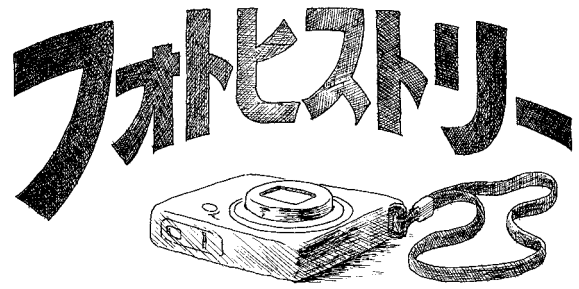
# 「恵田っ子ぶどう園」で初収穫 (昭和61年)

写真提供：恵田小学校

恵田小学区では、昭和二十五年頃からそれまでの柿や桃の生産にかえ、ぶどうを栽培するようになった。写真は、恵田小学校内に作ったぶどう園で、初収穫を祝う会を行った様子である。

市内には、自然薯やササユリ、ホタルなど、地域の特性を生かした栽培活動や飼育活動を行っている学校がある。専門的な知識をもった地域の方と触れ合うことで、子供たちは栽培や飼育の技術を知ることができる。同時に、ふるさとを知り、ふるさとに対する誇りを感じる。

地域に根ざした栽培活動や飼育活動を通して、子供たちはふるさとを知り、ふるさとを愛する心を育んでいくのである。



「トップダウンではだめ。文化を変えるには、一人一人の意識改革が必要である。」と安藤教育長は語る。

働き方改革では、教員の「主体的、対話的」な取り組みが求められる。永く続く岡崎の教育にとって、新たな時代が、まさに今、始まろうとしている。

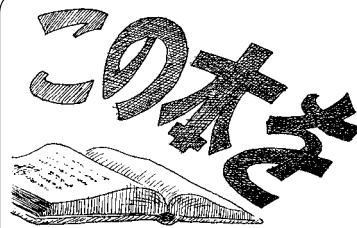
## ど ホ ツ 文 目



ツルレイシとともに (根石小)

ほかにないもの、ここでしか造れないもの。これこそ深田氏が目指したものである。悠紀斎田の米を使った岡崎にしかない酒。岡崎を離れた旧友にはどんな味がするか。故郷岡崎の酒を酌み交わしながら、故郷の話に花を咲かせたい。懐かしさに酔いしれることは間違いない。

ツルレイシの成長は早い。あつという間に、子供たちの背丈を越えていく。観察する子供の見上げる先に太陽が輝く。夏の日差しを糧に、たくましく成長するツルレイシに負けずに、そして、夏の暑さに負けずに、子供たちも、強くたくましく伸びる。



\*こうやって、考える。  
PHP研究所

外山滋比古  
¥1,200

心に残った一文  
コミュニケーションの多元性を確保する

どうしたらコンピューターに呑み込まれないようになれるか。さしずめ、コンピューターには困難な、話したり聞いたりする対話力を伸ばすことが肝要となる。

3人寄れば文殊の知恵と言われる。5、6人ともなれば、触れ合いと融合、相互作用によって、多角的なコミュニケーションが可能となり、最高の人知があらわれる。これは、生活に必要な力や対話的な学習への一助となり、話す・聞く能力を伸ばす秘訣にもなっていく。

本書は、発想力や思考力を磨くヒントが得られる箴言集となっていて、不思議な親近感と信頼感に抱かれる。

\*宇宙に命はあるのか  
S B新書  
\*妻に捧げた1778話  
新潮新書  
\*生きていくあなたへ  
幻冬舎

小野 雅裕  
¥800  
眉村 卓  
¥680  
日野原重明  
¥1,000

井田小 山本 照司